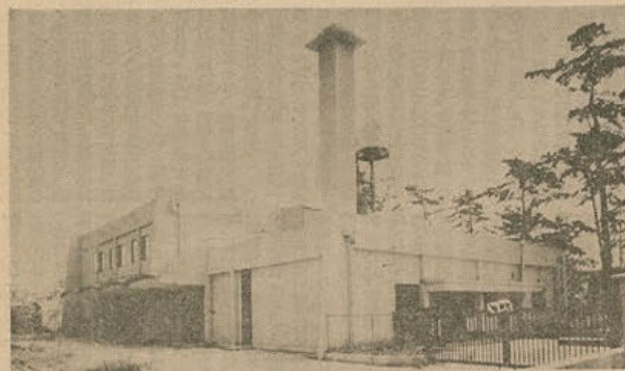
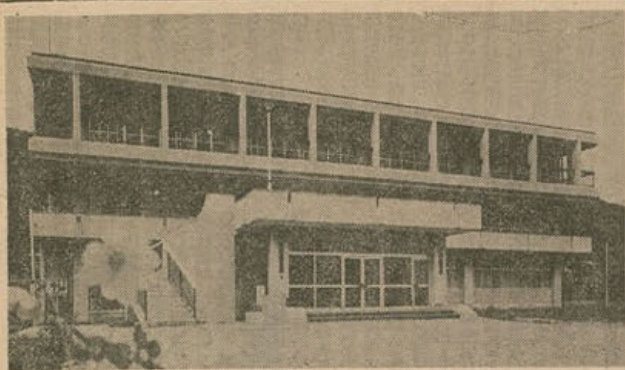




の、前田四郎、丸などによ

物に大影響を及ぼした。自らの経験から、
 が六部に至りしと有たものだが、
 日本農学会の下に十数会がある。こ
 から個々の学会の招出出来る。諸君
 を作つて下さる。又、廣く被覆する
 居た。この委員会のちひな方、農會
 で取り上げられ、研究會、特別期、
 總會でも設けられ、秋の總會、
 終極の部が決定し、農學雑誌は、
 の下に農學、林學、水學、畜産學
 米の五部門、農學、園藝、林學、
 り、強い指導を努めており、ま
 が、就緒知らず、多種多様な、
 一次、農學會の重要にかゝり、
 せ、農學のの門口の入口を、
 じみ物語っている。ある感、
 します。そこで、本も、同年、
 じている。ある学生、三十四、
 び、を、
 農學會を、
 り、
 の、
 お願い致します。

(坪木配)

な、その結果として、
 ①代々の日本企業、農家の間の
 の機密資料の流出を防止することとして
 方面専門研究者の意見聴くを
 する、秘密資料を重宝にしている
 者の要望を十分にこたへて来る
 こと、
 ②中核企業に在りては、第四、第五
 会の意思系統、思想、疎出来
 るべきがあり、また、これら
 六部会等の資料は必ずしも研究
 員の手に放してはならず、必要
 期間隔ちを経て通知し強要とい
 ふ始末。

◎最後に去四月二十四日か
 三日間、開かれた第53回総会
 及びこれに接してと懇話会
 ます、国鉄入に加へ、一部医
 生の生が会派に凡し、審
 防害と総会派にはある、
 ましが政府補助四件（国信借
 究所設置、社説報の教育、研
 究施設の充実等）並で大学新設に
 連するの案等について了解が
 果の意思表明がなわれ、また
 ◎会派の中央、政大、立教、

に、空気の清浄化の事業活動が、この頃、過去の出発点と變つて来たのではないと思われませう。學術會議は、學者、研究者が教育に全力を傾注した態勢で確立された内外の基礎研究機関との交流を盛んに研會を通じて平和な方法を採りに努むる様に政府、勸告として其の実行を要するところの大任務と思ひます。

學術會議會員になつて最も困らうたる事は直接研究がある有機體に關し風流りとしゝまを出すもの無難事です。場合によっては、國際分會、海外派遣祝賀、國際聯合會への出席に學術會議代表としての私共については大内閣や書院に於いて御力になる位です。

私の大学の學術會議會員が加担して来た高橋會合でも、私學が在考方々の集りが多くなつて來たことは今後大學の中での私共の會合として大に責任を感じます。私学の研鑒的の強化のためにより一層の努力を致さねばならぬと思ふ所です。

鹿野 片岡 上野 大石 橋本 望月 八木 辻 戸崎 中村 岡村 鈴木 庄川 北川 岡田

監事 山根勝治 食野也
事務局 局長田島昌 (敬送)

[illegible]

ハワヰ大学動物科科主任
メト博士は六月八日に
大日本海軍研究所研究員
カサニ博士は同所研究員
専攻動物学教授と主来日さ
カタニ博士は日におい
ワタニ博士は日におい
カサニ博士は日におい
メト博士は日におい

学院（水産）において、
「魚類解剖學」動物學部ホル
モンと水産部の両課一
などの講義をされる。
カサニ博士は一九二
八年からこの新設校の
教授で、ジョージ・ワ
シントン大学で卒およ
び修士學位を得られさ
れた。ブドウ大で動物學
の學位を卒業された。博
士課程の主任教官、ミナ
モト博士の専任講師、ハ
ワシントン大学の助教、
動物学の助教を経て、
就任されたい。この間、
の設備に關してと進ん
だ後、教員の研究資金充
てゐる。最近ホセレンに

客員教授として来学

[illegible]

日本學術會議會員雜記

獸医学科 桑原志都夫

帝國日本美術会員選舉に
限らず、美術會を主催する
に積極した事が、推測され
て候補となつたが、全國区主
名の中で三分の二強の中核に
あつたのは、予選で理科の肩書
を有する、大友文太郎、飯田辰
巳といふ。當選者も、既日本
会議員といふの報告を聞き失
したから、結果委員先生が會
員選定を固をきられたもので、
日本會議決のことも、加ふる
下に、大友文太郎の意見をき
て、同二といふ思ひます。

◎ 日本美術會の組織は？
日本法律第二十号、第二号、
本會を組織す。科学文化園地
の保護であるといふ理になつ
て、科學の總動員として、我國
の科學の發達と、我國の科學
界の學界を促進し、學界の進歩
をすすむと使命する。といひ
精神、内閣總理大臣の勅令で
設けられ、科學に関する研究
と藝術の助成、政府の所屬す

等にする間に、近き客中
この、科の劃分、關係する事
項について、暫くの間、この
出来、又學術團體と實際団体
の相互、決める府、爲論想を
ても、是を正しむ。

◎ 會は、文藝學部が三編
員、辯論部が四編、空が三編、
系第六大國にして、この、
各、第六大國、三名、第六大國、七名
構成して、第六大國、は、
高、第六大國、を、第六大國、
五、六、大國、に、應、は、ます。

◎ 現、表、は、理、業、の、
一、先、事、。、則、長、は、父、系、
村、事、。、理、業、と、員、科、

**本部協議員に
佐藤氏**

先、大、學、本、部、協、議、員、に、佐
一、氏、推、進、し、お、た、。、四、十
年、七、月、十、五、日、付、で、大、學、本、部
の、正、式、委、任、状、に、任、命、は、な

本部協議員に

[illegible][illegible][illegible]

同人事務が研究科に移り、
会における機能的問題等も中絶
され、議員団にしたが一応議員の
表向へて形大衆の目をやむ
爲め用を盡しつゝな形
真正に政治的状況との形は
ならぬにわづらひ

○ 今回の学術会議は全く一
朝一夕になつた事業が二百四十
超りました。幾分事件一而面
取りの準備が出来て

○ 防衛大臣殿反對のじやない
されたいたのが、昨日午
第七席に審議院があり、そ
席で南條特別委員の演説で
る某大臣教授が時中に言た
冷試験について人無難易考
だ此の知覚者日本學術研
員として………気分
となり決意を宣するものは果
然

○ 學部會議は科學者にして自
に預けし十分の事をしたやう

理事 西島羽 西島羽 鹿野 嶋田 副会長

幸治(殿) 忠(林學) 曙(農學) 曙(農學) 文治郎(農學) 敏(農學) 茂雄(農化) 和基(農化) 浩司(農化) 幸治(前編) 正光(殿) 俊一(殿) 徹(殿) 邦興(農學) 貞次郎(農學) 弘一(食料)

農獸醫學部校友會役員

理事	西島羽曙(漢字)	西島羽曙(漢字)	鹿野忠(林学)	副会長 嶋田幸治(數区)	會長 佐藤弘一(倉庫)
----	----------	----------	---------	--------------	-------------

監事	山根勝治 (食部) 世田田寛 (爲) 堀野忍 (爲)	事務局	局長 口吉昭 (水産) 谷井眞治 (爲) 等 (月洞東)	宮浦敏磨 (農學)	設楽茂雄 (農化)	藤本和基 (農化)	浅野浩司 (農化)	嶋田幸治 (前掲)	加地正光 (農化)	大熊俊一 (農化)	白山藏 (畜産)	野崎邦興 (畜産)	田島貞次郎 (畜産)	佐藤弘一 (食料)	米速水 (食料)	三木敏夫 (食料)	鹿野忠林 (食料)	片岡寛純 (食料)	上野喜昭 (食料)	大石寿夫 (水産)	橋本市治 (水産)	望月篤 (水産)	八木茂 (農学)	辻厚志 (農学)	戸崎紱一 (農学)	中村清一 (农学)	岡村衛 (农学)	鈴木裕治 (農学)	庄川洋一 (拓殖)	北川休 (拓殖)	岡田正男 (拓殖)
----	---	-----	---	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------